令和3年6月7日発行
第13号

青森県現代俳句協会会報

令和3年度青森県現代俳句協会総会

昨年からの新型コロナウイルス感染が収まらないことから、今年度の総会も通信制で行うこととしました。

議案を全会員に郵送し、5月15日付で書面表決を受け、これを総会といたしました。

概略は次の通りです。

第1号議案は令和2年度の事業報告について、第2号議案は令和2年度収支決算ついてでした。また、第3号議案は令和3年度事業計画（案）について、第4号議案は令和3年度収支予算（案）についてでした。

第4号議案として、昨年9月27日（土）に本県が当番として行った第34回現代俳句東北大会の収支決算を報告しました。

なお、協会の会計監査は4月26日に今監事にお願いし、適正との評をいただきました。

また、同日に第34回現代俳句東北大会の会計監査を南監事にお願いしました。

決算及び予算の詳細は、全会員に郵送していますので、ここでは概要だけを記載します。

令和2年度収支決算

1収入	367,539円
繰越金	28,139円
会費	83,000円
本部交付金	57,600円
年鑑参加費	76,000円
青い森大会	108,000円
雑収入	14,800円
2支出	299,001円
運営費	17,852円
事業費	281,149円
予備費	0円

令和3年度収支予算

1収入	450,000円
繰越金	68,538円
会費	80,000円
本部交付金	60,000円
年鑑参加費	70,000円
青い森大会	169,000円
雑収入	2,462円
2支出	450,000円
運営費	51,000円
事業費	389,000円
予備費	10,000円

2021年版青森県現代俳句年鑑賞

今回は4回目となります。年鑑には会員の作品71編が掲載されていますが、本賞の対象となった作品は、顧問、会長、副会長、事務局長、既受賞者を除く59編となりました。

選考委員は顧問が務めることとなっていますが、今回は三役も参加して選考しました。第一次選考では2人以上の委員の推薦のあった14編が第二次選考の候補作に上がりました。

第二次選考の結果は次のとおりになりました。

第1席 14点
「蓬」　青森市　今　留里子

第2席 12点
「黒波から10年」　弘前市　阿保　子星

第3席 10点
「七月の海」　青森市　川村　英幸

第4席 9点
「火伏神」　青森市　浅利　康衛

第5席 8点
「毛糸編む」　十和田市　中村しおん

第14回青い森県民俳句大会

昨年に続き新型コロナウイルスの影響で会場での大会が困難となり、兼題だけでの大会にせざるを得なくなりましたが、皆様のご理解とご協力により参加者が169名になりました。

結果は次のとおりです。

【成績】

①知事賞・鈴木志美恵（五戸町）、②県議会議長賞・中谷恭子（青森市）、③青森市長賞・大川恵子（十和田市）、④青森市議会議長賞・永倉みつ（むつ市）、⑤東奥日報社長賞・丹野慶子（平川市）、⑥陸奥新報社長賞・榊せい子（青森市）、⑦デーリー東北新聞社長賞・草野力丸（深浦町）、⑧県俳句懇話会長賞・猪股敬子（八戸市）、⑨千葉芳醇（青森市）、⑩吉田千嘉子（八戸市）、⑪くどうひろこ（板柳町）、⑫斎藤ひでを（弘前市）、⑬中島五郎（青森市）、⑭小林五月（十和田市）、⑮木村詩織（弘前市）

・兼題A賞：鈴木志美恵
・兼題B賞：永倉　みつ
・兼題C賞：丹野　慶子

兼題A「草餅」　小野　寿子選

天位　仏壇の草餅つまむ小さな手　佐藤　摩季
地位　草餅や野に溶けさうな昼の月　小林　五月
人位　子と作る草餅どれも餡を噴く　西村　セイ
秀逸
草餅の色の深みや母白寿　赤坂　雪洲
草餅にゆるりと話はずみけり　比内　順子
草餅や共白髪てふよき言葉　中谷　恭子
草餅や施設の母に会えぬ日々　山口一茶子
草餅を届け女の長話　佐々木寿子

年鑑賞を受賞した今さん（右）

佳作
皺深き祖母の掌の中草の餅　加藤健一郎
草餅や触つて消したるマツチの炎　小野いるま
草餅やお国訛りの抜けぬ母　工藤　邦子
草餅や売子の強き土地訛　西川　無行
草餅や少年太き漁夫の腕　新山　魏一
草餅や年に一度の顔合はせ　千葉　禮子
草餅と書かれお寺の餅屋かな　布施　協一
草餅や妻黄泉の旅なれば　牧　ひろし
草餅や廊下短かき母の部屋　稲場　暁子
草餅や父母よりも長く生き　村上　楓
草餅や祖母の話を幾度でも　小林　とみ
草餅や健診票にBふたつ　木村　栄子
忌日はや旅に草餅二つ買ふ　山谷　文子
草餅の匂ひかすかな包み解く　下山　延子
草庵の草餅に列けふもでき　鈴木　操

木村　秋湖選

天位　村人に飢餓の口伝や草の餅　鈴木志美恵
地位　久に会ふはらから繋ぐ草の餅　吉田千嘉子
人位　草餅やまろく小さく母老いし　樋口　京子
秀逸
生きることまだ楽しくて草の餅　大澤　せい
草餅やお国訛りの抜けぬ母　工藤　邦子
ゆつくりと年をとりたや草の餅　井手上省子
草餅や祖母の話を幾度でも　小林　とみ
草餅や峠で別れそれつきり　藤田智恵子
佳作
草餅や山の湯宿の家苞に　木田多聞天
草餅やまろく小さく母老いし　樋口　京子
鄙びるに野の色野の香草の餅　小杉　郁子
親のなき友と会ふ日や蓬餅　松橋喜世美
草餅や年に一度の顔合はせ　千葉　禮子
草餅や合掌解かぬ野の仏　くどうひろこ
草よりも濃き草餅の香りかな　中村しおん
草餅や一口食めばははのこと　幸林　清栄
草餅や共白髪てふよき言葉　中谷　恭子
寅さんも昭和も遠し草の餅　永倉　みつ
来し方の苦し香ばし草の餅　高森ましら
無縁墓にぽつんと置かれ草の餅　榊　せい子
野の温みかすかに残る草の餅　田端　千鼓
山よりも濃きいろ母の蓬餅　対馬智恵子
草餅や他人行儀の距離縮め　大和　湖愛

金田一一子選

天位　後はだりしたる草餅予後の妻　草野　力丸
地位　草餅や売子の強き土地訛　西川　無行
人位　村人に飢餓の口伝や草の餅　鈴木志美恵
秀逸
草餅や合掌解かぬ野の仏　くどうひろこ
吾が作る草餅にある裏表　豊川　君子
草餅を食む老婆等の足湯かな　萬年　和子
来し方の苦し香ばし草の餅　高森ましら
草餅や上書きされる辞世の句　小出登志子
佳作
草餅や食ふとき柔肌偲ばるる　橘川まもる
搗くほどに野原の匂ひ蓬餅　中島　五郎
碁敵の含み笑ひや草の餅　竹浪　誠也
草餅やつまめば母の乳房かな　稲部天津子
草餅や土曜はいつも母のもと　秋谷美智子
初摘みの草餅仏と共に食ぶ　杉本喜和子
付添いに草餅託す見舞かな　秋庭善知鳥
子と作る草餅どれも餡を噴く　西村　セイ
袖口にのぞく肌着や草の餅　敦賀　恵子
草餅につつみきれない妣のこゑ　山本こう女
草餅や共白髪てふよき言葉　中谷　恭子
草餅や里山どれも良き名もち　齊藤　君子
草餅の良い面並べ子に送る　野呂みちゑ
蓬餅留守居をたのむ夫に買ふ　猪股　敬子
いつまでも母の味なり草の餅　三ケ森青雲

田村　正義選

天位　母心かたちにすれば草の餅　大川　恵子
地位　祖母の味母の形のよもぎ餅　南　美智子
人位　身に野辺の生気満しぬ草の餅　髙橋千夜湖
秀逸
生きることまだ楽しくて草の餅　大澤　せい
草餅の女系遺伝子ふっくらと　千葉　芳醇
仏の数生者の数の草の餅　竹鼻瑠璃男
村人に飢餓の口伝や草の餅　鈴木志美恵
草餅や共白髪てふよき言葉　中谷　恭子
久に会ふはらから繋ぐ草の餅　吉田千嘉子
草の餅轆轤挽く手を休めけり　石澤　正
妣の写真我より若し草の餅　秋野かをり
搗くほどに野原の匂ひ蓬餅　中島　五郎
おとうとの墓前に匂ふ草の餅　蒲田　吟竜
草餅やお国訛りの抜けぬ母　工藤　邦子
母の手の温もりのこる草の餅　伊藤　芳博
草餅を互いに分け合う村十戸　後藤　岑生
草餅を搗きたる臼に野が香る　畑中とほる
草よりも濃き草餅の香りかな　中村しおん
耳たぶと同じ柔さや草の餅　岡部　文子
草餅や里山どれも良き名もち　齊藤　君子
蓬餅留守居をたのむ夫に買ふ　猪股　敬子
仏前の草餅下げる御鈴の音　平　恵
草餅や野に溶けさうな昼の月　小林　五月

森下　睦子選

天位　草餅や共白髪てふよき言葉　中谷　恭子
地位　草餅の女系遺伝子ふっくらと　千葉　芳醇
人位　大釈迦の色濃く匂ふ草の餅　桜庭　恵
秀逸
草餅や合掌解かぬ野の仏　くどうひろこ
ゆつくりと年をとりたや草の餅　井手上省子
村人に飢餓の口伝や草の餅　鈴木志美恵
寅さんも昭和も遠し草の餅　永倉　みつ
草餅や里山どれも良き名もち　齊藤　君子
佳作
草餅や笑で補ふ語学力　三橋　聖
妣の写真我より若し草の餅　秋野かをり
生きることまだ楽しくて草の餅　大澤　せい
草餅やお国訛りの抜けぬ母　工藤　邦子
傷多き父の戦後や草の餅　小林　小亀
草餅にゆるりと話はずみけり　比内　順子
酒呑みに婆の草餅ぶらさげて　竹浪　克夫
大きくて厚き祖母の手草の餅　後藤　朋子
蓬餅留守居をたのむ夫に買ふ　猪股　敬子
藍染の祖母の前垂れ草の餅　後藤　瑞江
三味の音やこみせ通りに草の餅　畠山　容子
草の餅庭師脚立に一服す　須郷　権太
無縁墓にぽつんと置かれ草の餅　榊　せい子
草餅や野に溶けさうな昼の月　小林　五月

仏壇の草餅つまむ小さな手　佐藤　摩季

渡邊　寂隆選

天位　皺深き祖母の掌の中草の餅　加藤健一郎
地位　真二つに分けて草餅子の笑顔　田村　芳陽
人位　まう一つ上目使ひに草の餅　木村　詩織
秀逸
鉤指の婆の手自在草の餅　田中　三桃
藍染の祖母の前垂れ草の餅　後藤　瑞江
草餅や丸の凹みに織部焼　雪田　樹理
草餅につつみきれない妣のこゑ　山本こう女
生きることまだ楽しくて草の餅　大澤　せい
佳作
草餅の黄粉は雲のごとくなり　増田　信雄
搗くほどに野原の匂ひ蓬餅　中島　五郎
草餅やまろく小さく母老いし　樋口　京子
草餅のみやげに愚痴をぐつと呑む　澁田　紀子
鷲掴みに食らふ生地の草の餅　田村　正義
草餅の色の深みや母白寿　赤坂　雪洲
草餅の女系遺伝子ふっくらと　千葉　芳醇
草餅や一口食めばははのこと　幸林　清栄
村人に飢餓の口伝や草の餅　鈴木志美恵
草餅や共白髪てふよき言葉　中谷　恭子
母の手の皺そのままに草の餅　中澤　玲子
草餅に葉脈残して旨味濃し　堰合　千恵
草餅の嫁の手ほどの柔らかさ　浅利　康衛
草餅や白寿の母は背を伸ばす　東川　桃篁

兼題B「東風」　大瀬　響史選

天位　強東風や浜をはなれぬ深き皺　竹浪　克夫
地位　東風吹いて世間知らずが町を出る　大和　湖愛
人位　東風吹いて宇宙ステーション少しずれ　千葉　芳醇
秀逸
東風ふかば貼り紙鳴らす無人駅　長利　冬道
強東風や沖より変る海の色　増田　信雄
東風の浜少年ひとり倒立す　関　礼子
桜東風狛犬鼻を膨らませ　笹原　郁子
東風吹くや野馬の乳房ふくらみて　一戸　鈴
佳作
朝東風や照射治療は地下二階　三橋　聖
夕東風に艫を遊ばす浜の村　長尾　青竜
東風つよし浜に寄りくる韓国瓶　小野　寿子
東風吹かば岬の馬の立眠り　石澤　正
強東風や砂に埋もれし座礁船　畑中とほる
強東風や廻りぱなしの風力車　明才地禮子
東風吹くや桐の蕾は堅きまま　清水山査子
強東風に動ぜぬ馬の太き脚　村木　謙二
おもちや箱のやうな駄菓子屋雲雀東風　石田かつら
強東風や津軽の飢饉史まざまざと　稲場　暁子
夕東風やふかき路地まで潮匂ふ　幸林　清栄
夕東風や赴任の教師荷を解き　山谷　文子
喪の花の気高き白や桜東風　中谷　恭子
客を呼ぶ朝市の声鰆東風　佐藤　摩季
夕東風や暖簾はためく休肝日

草野　力丸選

天位　強東風に動ぜぬ馬の太き脚　村木　謙二
地位　露天湯の首唄ひ出す東風の中　金田一一子
人位　荒東風や浜の丸太に手鉤傷　松宮　梗子
秀逸
桜東風電光板は明日も晴れ　蒲田　吟竜
少年に密かな野望桜東風　大川　恵子
東風吹かば痛風にはかにぶり返す　牧　ひろし
強東風や津軽の飢饉史まざまざと　石田かつら
強東風に目の潤みゐる岬馬　榊　せい子
佳作
強東風や沖より変る海の色　増田　信雄
東風吹いて津軽の大地動き初む　中島　五郎
師の句碑を拭けば艶増す桜東風　西川　無行
庭石の個々に相あり桜東風　斎藤ひでを
朝東風や網がうがうと洗ふ音　南　美智子
荒東風や公園は我が通学路　布施　協一
忌を修し決意に東風の強きかな　比内　順子
遠き娘のメールにえがお桜東風　蒲田　幸子
反乱の蛇口天向く東風のこゑ　竹鼻瑠璃男
強東風の曲げたる傘の骨あまた　岡部　文子
陶窯の煙連れ立つ桜東風　白戸　星央
梵鐘のつつむ一帯桜東風　赤沼　淑子
強東風や欅並木の音太し　寺岡　洋子
強東風や浦の磯舟軋ませて　萬年　和子
寺町の賑はふパン屋桜東風　下山みのる

関　礼子選

天位　東風吹くや野馬の乳房ふくらみて　一戸　鈴
地位　強東風や寄す波だけの船だまり木村あさ子　永倉　みつ
人位　朝東風や浜に魚市野菜市
秀逸
強東風や沖より変る海の色　増田　信雄
朝東風にはねるネクタイ初出勤　松橋喜世美
夕東風やちやぷりちやぷりと船溜　菊谷三鰺子
東風に身を寄せ合ひ軋む漁船かな　髙橋千夜湖
強東風や浦の磯舟軋ませて　萬年　和子
佳作
強東風や逆波立ちて蟹田川　加藤健一郎
歩きけり疫病の中東風の中　坂本　幽弦
山東風やこだまとなつて一樹鳴る　大澤　せい
強東風や廻りぱなしの風力車　明才地禮子
朝東風に耳を撫でられ出勤す　澁田　紀子
羽撃きて東風に躓く海鵜かな　草野　力丸
夕東風や父の船待つ子らに吹く　山本こう女
客を呼ぶ朝市の声鰆東風　中谷　恭子
夕東風が銭湯帰りの頬なでる　瀧内　政子
強東風や岩に白波突き当たる　猪股　敬子
桜東風爺の遺灰を飛ばし行く　石郷岡芽里
強東風や礁あらはに寄する波　千葉すみれ
東風吹くや緩ぶことなき夫婦岩　東川　桃篁
強東風に目の潤みゐる岬馬　榊　せい子
露天湯の首唄ひ出す東風の中　金田一一子

松宮　梗子選

天位　朝東風や浜に魚市野菜市　永倉　みつ
地位　羽撃きて東風に躓く海鵜かな　草野　力丸
人位　桜東風に音のせてくる鼓笛隊　越後　則子
秀逸
船の名に福の字多し桜東風　吉田千嘉子
東風に乗る幼子の声鈴のやう　田中　翠声
夕東風やふかき路地まで潮匂ふ　稲場　暁子
朝東風や白きベールの八甲田　山田のぶ子
強東風や龍神堂の門扉開く　後藤　瑞江
佳作
吊り橋を進めば頬を東風過ぎて　古　葉
強東風や砂に埋もれし座礁船　畑中とほる
折り紙の帆掛け舟にも桜東風　竹浪　誠也
強東風に逆らう声や通学路　米塚　みゐ

強東風の耳を染めたる峠かな　日野口　晃
東風の浜少年ひとり倒立す　関　礼子
朝東風に耳を撫でられ出勤す　澁田　紀子
夕東風やちやぷりちやぷりと船溜　菊谷三鰺子
強東風や目覚めの遅き大銀杏　杉本喜和子
強東風に動ぜぬ馬の太き脚　村木　謙二
喪の花の気高き白や桜東風　山谷　文子
強東風や岩に白波突き当たる　猪股　敬子
東風吹くや地に廣げたる測量図　山本もとい
強東風に目の潤みゐる岬馬　榊　せい子
夕東風や暖簾はためく休肝日　佐藤　摩季

三ケ森青雲選

天位　強東風に目の潤みゐる岬馬　榊　せい子
地位　東風吹くや地に廣げたる測量図山本もとい
人位　羽撃きて東風に躓く海鵜かな　草野　力丸
秀逸　強東風や廻りぱなしの風力車　明才地禮子
朝東風に耳を撫でられ出勤す　澁田　紀子
陶窯の煙連れ立つ桜東風　白戸　星央
東風吹くや旅に買ひたる古城の絵　豊川　君子
桜東風に音のせてくる鼓笛隊　越後　則子
佳作
船の名に福の字多し桜東風　吉田千嘉子
東風吹いて津軽の大地動き初む　中島　五郎
桜東風明日あることを疑はず　工藤　邦子
真新し横断歩道東風渡る　川村　英幸
朝東風にはねるネクタイ初出勤　松橋喜世美
夕東風やふかき路地まで潮匂ふ　稲場　暁子
夕東風や赴任の教師荷を解き　幸林　清栄
喪の花の気高き白や桜東風　山谷　文子
強東風へ出て行く今も記者魂　齊藤　君子
梵鐘のつつむ一帯桜東風　赤沼　淑子
朝東風や自転車の列遠くまで　畠山　容子
潮の香を町に届けし朝の東風　馬場　裕子
荒東風や浜の丸太に手鉤傷　松宮　梗子
寺町の賑はふパン屋桜東風　下山みのる
強東風や手足踏むばるホタテ漁　小出登志子

山谷　文子選

天位　東風吹いて津軽の大地動き初む中島　五郎
地位　陶窯の煙連れ立つ桜東風　白戸　星央
人位　庭石の個々に相あり桜東風　斎藤ひでを
秀逸
船の名に福の字多し桜東風　吉田千嘉子
真新し横断歩道東風渡る　川村　英幸
強東風に動ぜぬ馬の太き脚　村木　謙二
東風吹くや修復中の城の堀　今　椿
梅東風を呼ぶ太宰府よ道真よ　丹野　慶子
佳作
師の句碑を拭けば艶増す桜東風　西川　無行
自分史に一行加ふ東風の夕　小杉　郁子
夕東風や遊び帰りの子等の声　田村　芳陽
強東風や寄す波だけの船だまり　木村あさ子
おもちや箱のやうな駄菓子屋雲雀東風　どうひろこ
東風吹くや路地それぞれの匂ひ持ち木村　栄子
東風吹くや物欲しげなる仔牛の眼　鈴木志美恵
朝東風や浜に魚市野菜市　永倉　みつ
強東風へ出て行く今も記者魂　齊藤　君子
梵鐘のつつむ一帯桜東風　赤沼　淑子
朝東風や湾の一船動き出す　三ケ森青雲
強東風や浦の磯舟軋ませて　萬年　和子
潮の香を町に届けし朝の東風　馬場　裕子
東風吹くや地に廣げたる測量図　山本もとい
寺町の賑はふパン屋桜東風　下山みのる

兼題C「春季雑詠」後藤　岑生選

天位　花筏夜には宇宙へ流れつき　六　花
地位　風死して鉈彫の雉とぶ構へ　金田一一子
人位　母の手の紅絹の裂織あたたかし佃　正子
秀逸
混沌の世に確と生き種を蒔く　大川　恵子
清明や馬と光食む尻屋崎　赤坂　雪洲
漣に雲の切れ端水温む　今　椿
上野に見しさくらよ集団就職し　小林　とみ
おぼろ夜や孤独の重さ抱き眠る　松宮　梗子
佳作
ふらここの未来と過去をゆききして大瀬　雪田　樹理
春景色画布に写生し絵筆おく　川村　英幸
山吹の色を希望と思う朝　笹原　郁子
竜宮の門かと思ふ海の虹　布施　協一
海峡にブラキストンや雁帰る　蒲田　幸子
引き返す力まだあり春の涛　稲場　暁子
壺焼きのわたで地酒の旨さ出す　岡部　文子
黄水仙噂話はみんな好き　山田のぶ子
囃されて大枝小枝萌え立てり　清野さくら
棟上げの高き槌音雪解風　永倉　みつ
野仏に軽く一礼わらび摘む　堰合　千恵
温もりを土より貰ふ春の蝶　山口一茶子
岩木山仰ぎ守られ種を蒔く　山本もとい
十年の苦節は重し花万朶　木村　秋湖
惜春や取り残されて独り住む　丹野　慶子

坂本　幽弦選

天位　風船の上る重さのありにけり　中谷　恭子
地位　花守の動かざる目や雲流る　大川　恵子
人位　混沌の世に確と生き種を蒔く　亀田　祐子
秀逸
石段に白墨のあと春の昼　永倉　みつ
野仏に軽く一礼わらび摘む　千葉すみれ
入学児著き歩道を手を引かれ　木村　詩織
都忘れ菓子缶の骨淡し　今　椿
漣に雲の切れ端水温む　蒲田　吟竜
佳作
荒波やカムイの空はリラの雨　佃　正子
母の手の紅絹の裂織あたたかし　松橋喜世美
看護師のささやいて消す春灯　田村　芳陽
聞き上手話上手の花筵　布施　協一
海峡にブラキストンや雁帰る　村上　楓
竿売りの声遠ざかる日永かな　幸林　清栄
毎日が不要不急の朝寝かな　山田のぶ子
囃されて大枝小枝萌え立てり　山谷　文子
声欲しき雨のいちにち四月来る　鈴木志美恵
昼深し牛の水場に野梅の香　清野さくら
棟上げの高き槌音雪解風　白戸　星央
桜前線復興の地は丁寧に　田中　三桃
ささくれし万年筆や昭和の日　東川　桃篁
花の種蒔けば真青な空となり　大和　湖愛
都忘れ遺品の中にラブレター

高森ましら選

天位　風船の上る重さのありにけり　丹野　慶子
地位　春の水何かを掬ひあげてゆく　畠山　容子
人位　引き返す力まだあり春の涛　蒲田　幸子
秀逸

都忘れ菓子缶の骨淡し　木村　詩織
看護師のささやいて消す春灯　松橋喜世美
竿売りの声遠ざかる日永かな　村上　楓
たんぽぽや巣箱のやうな靴置場　敦賀　恵子
花吹雪消毒液のすぐ乾く　小向　萩月

佳作

人間の渦に春光降りしきる　髙野万津江
父の忌の墓の陰より雪解水　清水山査子
花種を配る震災地のガイド　西川　無行
花ぐもり大工片目で狂ひ見る　斎藤ひでを
戦火など無いかと覗く蝌蚪の国　田村　正義
角生えて仔牛の勇む厩出し　くどうひろこ
ナビ合はせ北の国へと鳥帰る　井手上省子
左様ならの後大揺れのぶらんこよ　竹鼻瑠璃男
露天湯の石に命名山笑ふ　竹浪　幸子
黄水仙噂話はみんな好き　岡部　文子
遠足の好物昆布おむすびに　原田ひでか
せんべいの耳かみしめる啄木忌　中村　洋子
案の定負けて帰るや恋の猫　猪股　敬子
風船の息継ぎ三度まだ足らず　榊　せい子
つつじ山少年野球見下ろして　下山みのる

敦賀　恵子選

天位　花ぐもり大工片目で狂ひ見る　斎藤ひでを
地位　親よりも大き子の靴山笑ふ　小林　五月
人位　せんべいの耳かみしめる啄木忌　中村　洋子

秀逸

八十の端た大事に春を待つ　市川　明子
漣に雲の切れ端水温む　今　椿
風船の上る重さのありにけり　丹野　慶子
ささくれし万年筆や昭和の日　田中　三桃
自転車を出してみたとて春の雨　木村　匡

佳作

足湯してじわり出てくる花疲れ　乳井　光昭
春北風の標的となり堤ゆく　増田　信雄
苦生野に声を残して鳥帰る　石澤　正
陸奥湾の春や潮噴く鯨ゐる　橘川まもる
ふらここの未来と過去をゆききして　大瀬　響史
竜宮の門かと思ふ海の虹　笹原　郁子
戦火など無いかと覗く蝌蚪の国　田村　正義
海峡にブラキストンや雁帰る　布施　協一
引き返す力まだあり春の涛　蒲田　幸子
左様ならの後大揺れのぶらんこよ　竹鼻瑠璃男
案の定負けて帰るや恋の猫　猪股　敬子
春の水何かを掬ひあげてゆく　畠山　容子
止水栓開きホースを伸ばす春　石郷岡芽里
花吹雪消毒液のすぐ乾く　小向　萩月
風船の息継ぎ三度まだ足らず　榊　せい子

中村しおん選

天位　絶壁に声落としゆく巣立鳥　畑中とほる
地位　風船の上る重さのありにけり　丹野　慶子
人位　陰雪の礫石ひとつ噛みゐたり　郡川　宏一

秀逸

混沌の世に確と生き種を蒔く　大川　恵子
山吹の色を希望と思う朝　川村　英幸
たんぽぽや巣箱のやうな靴置場　敦賀　恵子
案の定負けて帰るや恋の猫　猪股　敬子
のどけしや始業のチャイム畑まで　寺岡　洋子

佳作

鳥帰る五重の塔を下に見て　桜庭　恵
石段に白墨のあと春の昼　亀田　祐子
戦火など無いかと覗く蝌蚪の国　田村　正義
海峡にブラキストンや雁帰る　布施　協一
先生の笑はせ上手のどかなる　比内　順子
みづくきの流れも春の遅速かな　山本こう女
口ずさむ「青い山脈」木の芽吹く　江渡永見子
竿売りの声遠ざかる日永かな　村上　楓
棟上げの高き槌音雪解風　清野さくら
野仏に軽く一礼わらび摘む　永倉　みつ
手を合はす土偶の目にも桜かな　中野渡　悟
ささくれし万年筆や昭和の日　田中　三桃
桟橋の五色のテープ鳥雲に　須郷　権太
挫折して強くなる子や草青む　佐々木寿子
あのこともこのことも乗せ落花かな　石﨑　志亥

吉田千嘉子選

天位　作業着の乾ききつたる春の泥　木村あさ子
地位　昼深し牛の水場に野梅の香　鈴木志美恵
人位　混沌の世に確と生き種を蒔く　大川　恵子

秀逸

ふらここの未来と過去をゆききして　大瀬　響史
聞き上手話上手の花筵　田村　芳陽
竿売りの声遠ざかる日永かな　村上　楓
せんべいの耳かみしめる啄木忌　中村　洋子
花冷の眠りの浅き夜明けかな　越後　則子

佳作

ことごとく空に映れり花こぶし　三橋　聖
春北風の標的となり堤ゆく　増田　信雄
白神の樵の大樹の雪間かな　小野いるま
山吹の色を希望と思う朝　川村　英幸
思ひきり赤子泣く声初桜　竹浪　克夫
角生えて仔牛の勇む厩出し　くどうひろこ
黄水仙噂話はみんな好き　岡部　文子
春月や小さな嘘は聞き流し　木村　栄子
野仏に軽く一礼わらび摘む　永倉　みつ
棟上げの高き槌音雪解風　清野さくら
案の定負けて帰るや恋の猫　猪股　敬子
桜さくらつくづく人である憂鬱　佐々木朴花
雲ひとつ無き大空や揚げ雲雀　戸川美重子
のどけしや始業のチャイム畑まで　寺岡　洋子
縦走の大岳小岳鳥の恋　森下　睦子

◇今後の大会等行事予定

・第49回県懇話会十和田大会　6月30日
・第35回現代俳句東北大会　7月10日
・第61回県下五所川原俳句大会　10月10日
・第58回現代俳句全国大会　締切　7月31日
　大会　10月30日
・秋の吟行互選俳句大会（未定）　10月下旬
・第41回弘前俳句大会　10月31日

☆事務局からのお願い

・会報に載せたい記事や出来事を事務局までお寄せ下さい
・知人やお仲間を本協会の会員にお誘いをお願いします。

発行所　青森県現代俳句協会
発行人　後藤　岑生
〒030-0853　青森市金沢4の10の13